家庭学習の指導の手引き

（詳細版）

令和６年４月

佐賀県教育委員会

はじめに

学力向上を図るためには、「力が付く授業の実践」に加え、学校で学んだ内容を定着させたり、深めたりするための家庭学習の充実が欠かせません。また、**家庭学習を充実させることは、学力向上につながるだけでなく、「生涯にわたって学び続ける子ども」「自分で自分のことを決められる子ども」を育てることにもつながっている**と考えます。

家庭学習の充実のためには、時間の十分な確保はもちろん、質的な改善が必要であると考えます。各学校においては、これまでも、様々な取組や工夫・改善が行われてきたと思います。佐賀県教育委員会では、家庭学習の更なる充実を通して、上記のような子ども達の育成につなげてほしいという願いから「家庭学習の指導の手引き」を作成しました。各学校における家庭学習の指導のための手掛かりとしてご活用ください。

この手引きでは、「家庭学習」を「宿題」と「宿題以外の学習」として捉え、以下のように整理して考えています。

「宿題」は、教員の指示・管理のもとで行われる家庭学習とし、どの子どもにも一様に課せられる内容を指します。自主学習など、内容や量を指定していなくても、提出を指示している場合も「宿題」と捉えます。

「『宿題』以外の学習」とは、子どもの自主的な学習であり、教員による内容や提出期日の指示がないものとします。少しずつ、「『宿題』以外の学習」への意欲を高めていくことを目指します。

家庭学習

「宿題」
・どの子にも一様に課す内容
・提出を指示している「自主学習」

「宿題」以外の学習

※塾や通信学習等は、「家庭学習」に含めないこととします。

【目次】

内容	ページ
１　家庭学習の指導について、学校の取組をチェックしてみましょう	３
２　家庭学習に主体的に取り組む子どもを育てるために	４
(1) 家庭学習の目的や意義を伝えましょう	５
(2) 授業と家庭学習をつなげましょう	６
(3) 「宿題以外の学習」への意欲を高める働き掛けも行いましょう	８
(4) 一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出してみましょう	９
(5) 子どもの頑張りを、学校でも家庭でも認め、ほめましょう	１０
３　効果的、効率的な家庭学習のために	１１
(1) 目安を示して、子どもと共に学習時間を考えましょう	１２
(2) 家庭学習の方法、力が付くポイントを指導しましょう	１２
(3) 生活リズムの中に、家庭学習を位置付けるように働き掛けましょう	１４
(4) ＩＣＴも効果的に活用しましょう	１５
４　教員、子ども、保護者の連携を深めるために	１６
(1) 教員同士の共通理解・共通の指導を行いましょう	１７
(2) 子どもとの共通理解を図りましょう	１７
(3) 保護者との共通理解を図りましょう	１８

1　家庭学習の指導について取組をチェックしてみましょう

チェック項目	☑
子どもが主体的に取り組んでいますか。 （☑が１つでも付かなければ、p4へ）	
□家庭学習の目的や意義を子どもに分かりやすい言葉で伝えていますか。 □授業や単元（題材）の学習内容と関連付けた宿題を出していますか。 □「宿題以外の学習」への意欲を高める働き掛けを行っていますか。 □一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出していますか。 □子どもの頑張りを認めて、ほめていますか。	
宿題への取組を通して身に付ける力を意識し、具体的な指導をしていますか。 （☑が１つでも付かなければ、p１１へ）	
□学習時間の目安を伝えていますか。 □家庭学習の具体的な方法、力が付く方法を指導していますか。 □子どもが家庭生活の中で計画的に取り組めるような手だてを取っていますか。 □ICTの利点を生かした宿題を出していますか。	
教員、子ども、保護者が宿題の目的・内容について理解していますか。 （☑が１つでも付かなければ、p１６へ）	
□全教員が宿題の目的や内容、量について共通理解を図って、指導をしていますか。 □ガイダンスの時間を取って、子どもに目的等を説明していますか。 □保護者へ宿題の内容・量・時間等について説明をしたり、協力をお願いしたりしていますか。	

２　家庭学習に主体的に取り組む子どもを育てるために

⑴家庭学習の目的や意義を伝えましょう。

⑵授業と家庭学習をつなげましょう。

⑶「宿題以外の学習」への意欲を高める働き掛けも行いましょう。

⑷一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出してみましょう。

⑸子どもの頑張りを、学校でも家庭でも認め、ほめましょう。

(1) 家庭学習の目的や意義を伝えましょう。

子どもが主体的に家庭学習に取り組むためには、子ども自身が「なぜ家庭学習が必要なのか」、その目的や意義を理解することが大切です。家庭学習の目的や意義について、発達の段階に応じて子どもに分かりやすい言葉で伝えましょう。子どもに伝える前に、子どもに目的等を考えさせてもよいかもしれません。

【子どもへの説明例】

① 学習の習慣や粘り強さが身に付きます。

学年が上がるにつれて、学習内容が次第に高度になっていきます。難しい学習内容に取り組むためには、一定時間机に向かう「粘り強さ」も必要になります。低学年の頃から毎日机に向かって勉強することは、学習習慣だけでなく、学び続けるための「粘り強さ」を身に付けることにもつながります。

② 学習内容が定着します。

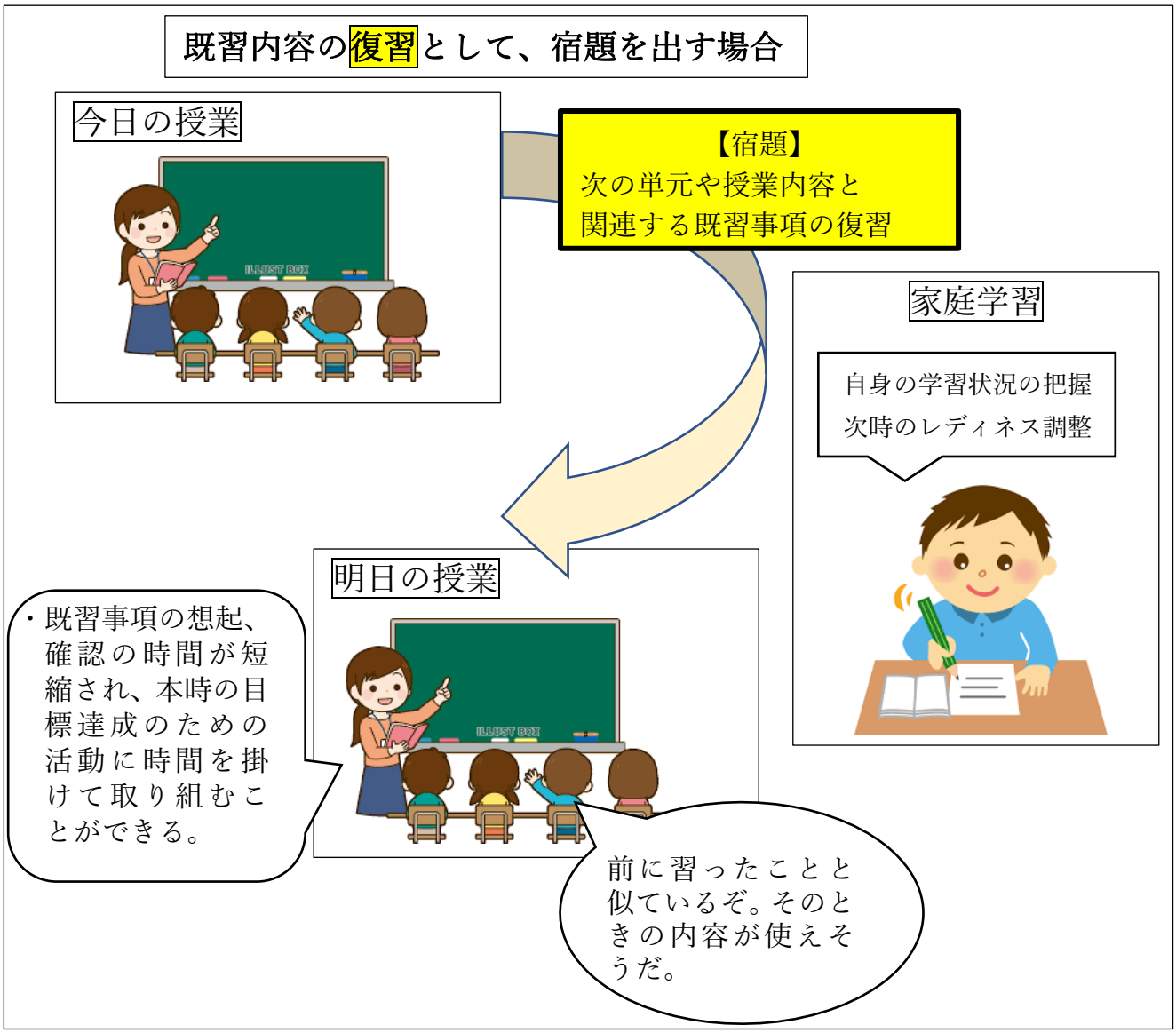
漢字の「読み書き」や算数・数学の「計算」、英単語などを確実に身に付けるためには、何度も繰り返して学習することが重要です。復習をすることで、理解が深まったり、忘れにくくなったりします。家庭学習では自分の理解の状況に合わせて、繰り返し学習することができます。

③ 夢の実現につながります。

毎日確実にやり続けることで、時間や自分の行動を自分で決める力が身に付きます。また、様々な課題を自らの力で解決しようとする力が育ちます。これらは、進学や進路のためだけではなく、自分の夢の実現のために必要な力です。

(2) 授業と家庭学習をつなげましょう。

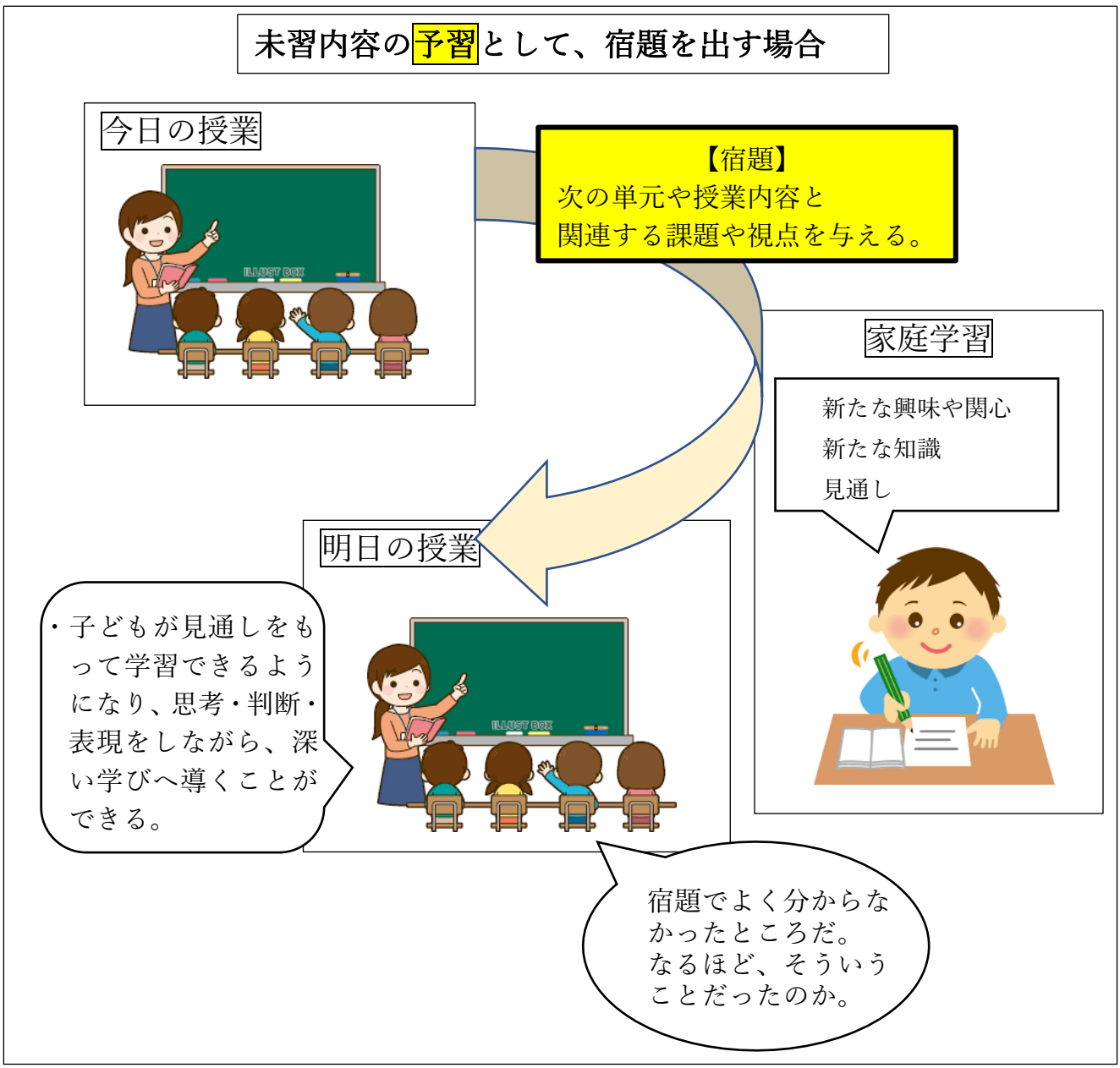
次の授業に家庭学習の内容がどのようにつながるのかを、子ども自身が理解しておくことで、家庭学習をする必然性、家庭学習に取り組む意味や意義が生まれます。また、子どもの家庭や授業での学びが主体的になり、量・質ともに高まっていくことが期待できます。



【指導例】

（中学校１年理科）

※単元「物質の性質と密度」の学習に入る前に、小学校５年算数「単位量あたりの大きさ」の内容に関する練習問題を宿題とする。



【指導例】

（小学校５年算数）

※（単元「三角形と四角形」の学習期間中に）授業で三角形の３つの角の大きさの和が 180 度であることを学んだ後、次の授業で四角形の４つの角の大きさの和を学習することを見据え、以下の内容を宿題とする。

・四角形の４つの角を分度器で図る。

・分度器を使わないで、４つの角の和が何度になるかを考える。

(3)「宿題以外の学習」への意欲を高める働き掛けも行いましょう。

家庭学習を、「生涯にわたって学び続ける態度を養う機会」であると捉えると、提出を義務付けた「宿題」を出す段階から、提出を義務付けていなくても、自主的に家庭学習に取り組む段階へステップアップしていくことが理想です。「予習」や「復習」のやり方を指導することで、学校の授業への興味・関心が高まったり、理解が深まったりして、そのことが主体的に学ぶ態度の育成へとつながっていくと考えます。

【子どもへの指導例】
宿題以外の学習として、「予習」や「復習」にも取り組んでみましょう。

〇予習
これから学ぶ学習内容を教科書や資料で確認して、「難しそうなところ」「授業で特に集中して学びたいところ」を整理して、書き出しておきます。

〇復習
授業で「分かったこと」「分からなかったこと」「もっと学びたいこと」を振り返り、その日の家庭学習で取り組む内容を考えます。

また、子どもに「自由選択型」の宿題の例を示し、子ども自身が内容を選択できるようにすることも、興味・関心を喚起し、学びへの動機付けにつながります。

【自由選択型の宿題の例】
〇興味がある本を選び、感想や自分の考えをノートにまとめる。
〇新聞を読み、要約したり、自分の考えを記述したりする。
〇楽器の練習をし、タブレットで録画して、繰り返し練習する。
〇一緒に料理をつくったり、洗濯をしたりする。

(4) 一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出してみましょう。

発達の段階に応じて、数日から一週間といった一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出すことで、主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を育てることができます。その際、提出することが目的となり、「単なる作業」で宿題に取り組む子どももいるかもしれません。宿題を出す際は、「宿題の目的」「到達基準」を示すことが重要です。

【子どもへの指導例（社会科）】
単元の学びを生かして、社会的な出来事について考えることができるかどうかを評価します。
まず、学習した単元の内容をノートにまとめましょう。
教科書の内容だけでなく、資料集の内容も使ってノートにまとめましょう。
次に、まとめた内容を基に、今自分が疑問に思っている社会的な出来事を探し、その出来事に対する自分の考えを書きましょう。

合格の基準は、
①単元で学んだ内容を書いていること。
②自分の考えの根拠を書いていること。
③考えの根拠となる資料を付けていること。

教科書と資料集、そして単元のノートを見直して、明後日までにまとめよう。
あと、今度の日曜日に図書館に行って、自分の考えを補足する資料を探してこよう。

(5) 子どもの頑張りを、学校でも家庭でも認め、ほめましょう。

佐賀県教育の合言葉は「ほめるから、はじめる。はじまる。（下図）」。

子どもの家庭学習への意欲は、教員や保護者が掛ける言葉やノートへのコメントによっても高まります。

【言葉掛け、コメント例】

視点①　子どもの努力を認める。
　・最後の一文字まで丁寧に書いているね。

視点②　子どもの成長を認める。
　・ノートのまとめ方が上手になってきたね。

視点③　子どもの工夫を認める
　・分かりやすく表にまとめていて、すごいね。

視点④　子どもの発想を認める。
　・先生（お家の人）も思い付かなかった考えが書いてあるね。

視点⑤　子どもの学びを広げる。
　・この考え方に「賛成ですか」「反対ですか」。また理由も言えるかな。

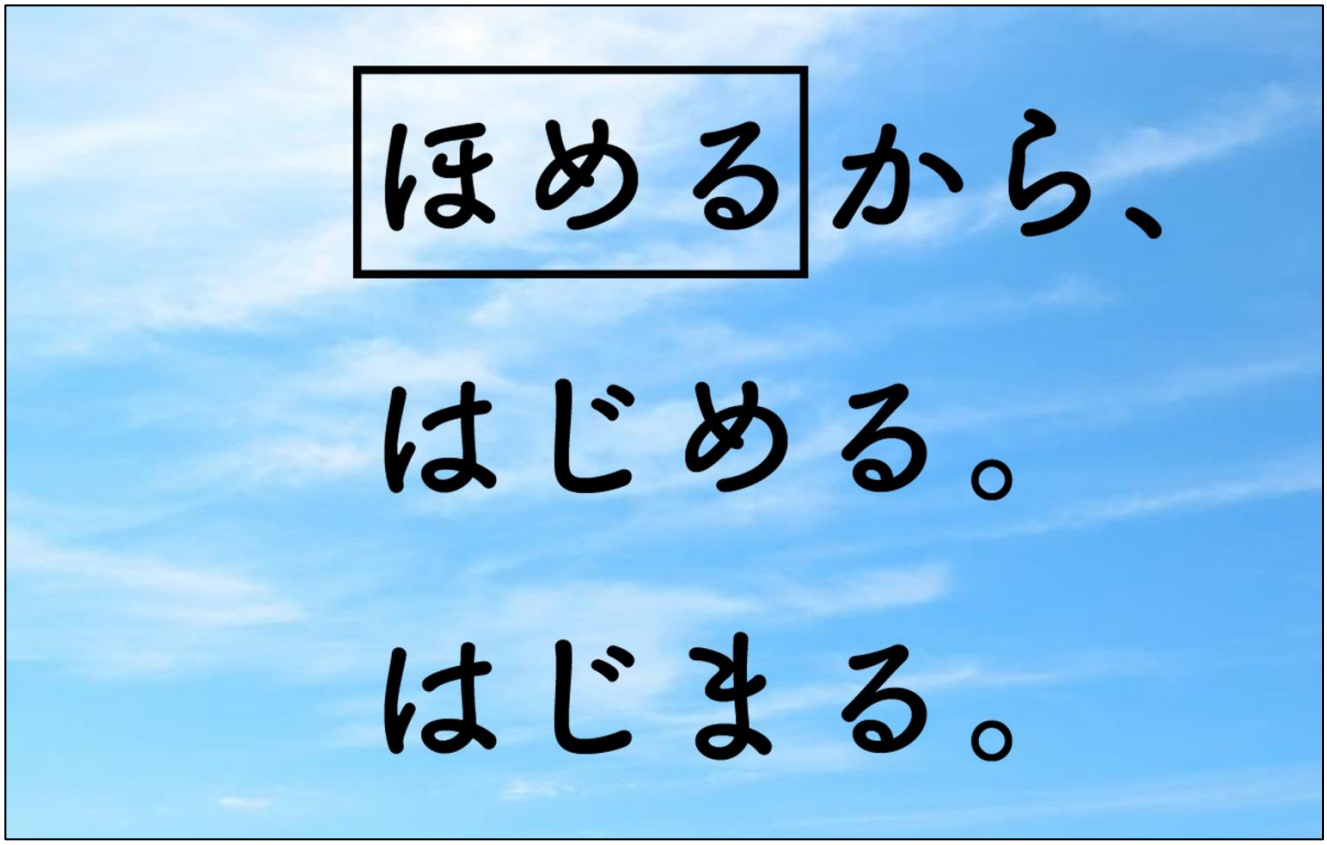


図　佐賀県教育の合言葉

３　効果的、効率的な家庭学習のために

(1)　目安を示して、子どもと共に学習時間を考えましょう。

(2)　家庭学習の方法、力が付くポイントを指導しましょう。

(3)　生活リズムの中に、家庭学習を位置付けるように働き掛けましょう。

(4)　ＩＣＴも効果的に活用しましょう。

(1) 目安を示して、子どもと共に学習時間を考えましょう。

家庭学習の取組の目安となる時間を子どもに示すことで、生活スケジュールに合わせた計画的な取組につながると思います。学年や発達の段階に応じて、適切だと思われる時間を、子どもと共に考えましょう。

(2) 家庭学習の方法、力が付くポイントを指導しましょう。

家庭学習は、ただ単に「頑張って取り組みましょう」「〇分は、机に向かいましょう」という指導ではなく、確実に学力を付けるための「やり方の指導」も大切です。

家庭学習をどのようにやればよいのか、どのようなことに気を付ければよいのかを発達の段階に応じて子どもに分かりやすい言葉で伝えましょう。

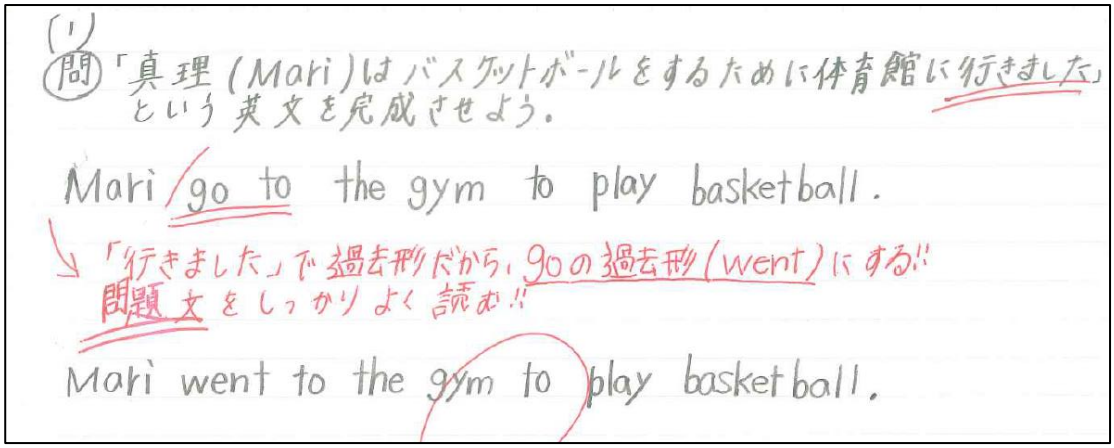
【子どもへの指導例】

① 学習の前に、集中して学習ができる環境をつくりましょう。
机の上はきれいに整頓し、目の届くところには勉強道具以外のものを置かないようにしましょう。

② 漢字や英単語を書くことが「単なる作業」にならないようにしましょう。
漢字や英単語を覚えるときは、「書いて覚えること」は大切です。でも、一度に何回も繰り返して書き、ノートのマス目を埋めることが目的になっていませんか。その場合は、「単なる作業」になってしまう可能性があります。漢字や英単語を単独で繰り返し書くばかりでなく、それらを活用した文章や英文を書くなど、実際の活用場面をイメージしながら練習することも大切です。

③「分かっていないこと」の確認を行いましょう。

答え合わせは、「正解」「不正解」を確かめるだけの「作業」になりがちです。「不正解」だった問題は、「**どこが間違っているのか**」「**どうして間違ったのか**」を丁寧に探り、「分かっていないこと」の確認をしましょう。そのためには、正解だけを書き写すのではなく、なぜ間違ったのか、正解とするにはどうしたらよいのかを、できるだけ自分の言葉で書きましょう。



④学習内容の「まとめ」が、ノートの「写し直し」にならないようにしましょう。

学校で学習した内容を、もう一度整理し、まとめ直すことはとてもよいことです。しかし、授業で書いたノートの内容をただ写し直すだけでは、②と同じように「単なる作業」になってしまいます。

「まとめ」をする場合は、次のことを行いましょう。

・ノートや教科書の丸写しではなく、自分の言葉を書き加える。
・自分の気付きや考えを書き加える。
・③のように「分かっていないこと」の確認を行う。
・学習内容と関連の深い内容を書き加える。

(3) 生活リズムの中に、家庭学習を位置付けるように働き掛けましょう。

全国学力・学習状況調査の結果によると、佐賀県の子どもの家庭学習の時間は減少していますが、一方で、次のような調査結果も出ています。

> 小学校においては、家庭学習の時間が長いと平均正答率も高くなる傾向が見られた。一方、中学校においては、 時間が長ければ成果が出ているというわけではなく、自分で考え計画的に取り組む生徒の平均正答率が高かった。

このことから、小学校段階では、家庭学習の習慣を付けることを重視しつつも、学年が上がるにつれて、目的に応じて方法や内容を含めた家庭学習の計画を子ども自身に考えさせることへとシフトしていくことが大切であると考えます。

家庭学習の習慣化のためには、生活リズムの中に学習の時間を位置付け、できるだけ同じ時間帯に学習することが大切です。ただ、子どもによっては、塾や習い事などがあり、毎日同じ時間帯で学習を行うことが難しい子どももいます。家庭学習を着実に行うためには、家庭学習計画表（下図）を用いて、個々の生活リズムに合わせた家庭学習の予定時間帯を子どもが記入する方法が考えられます。

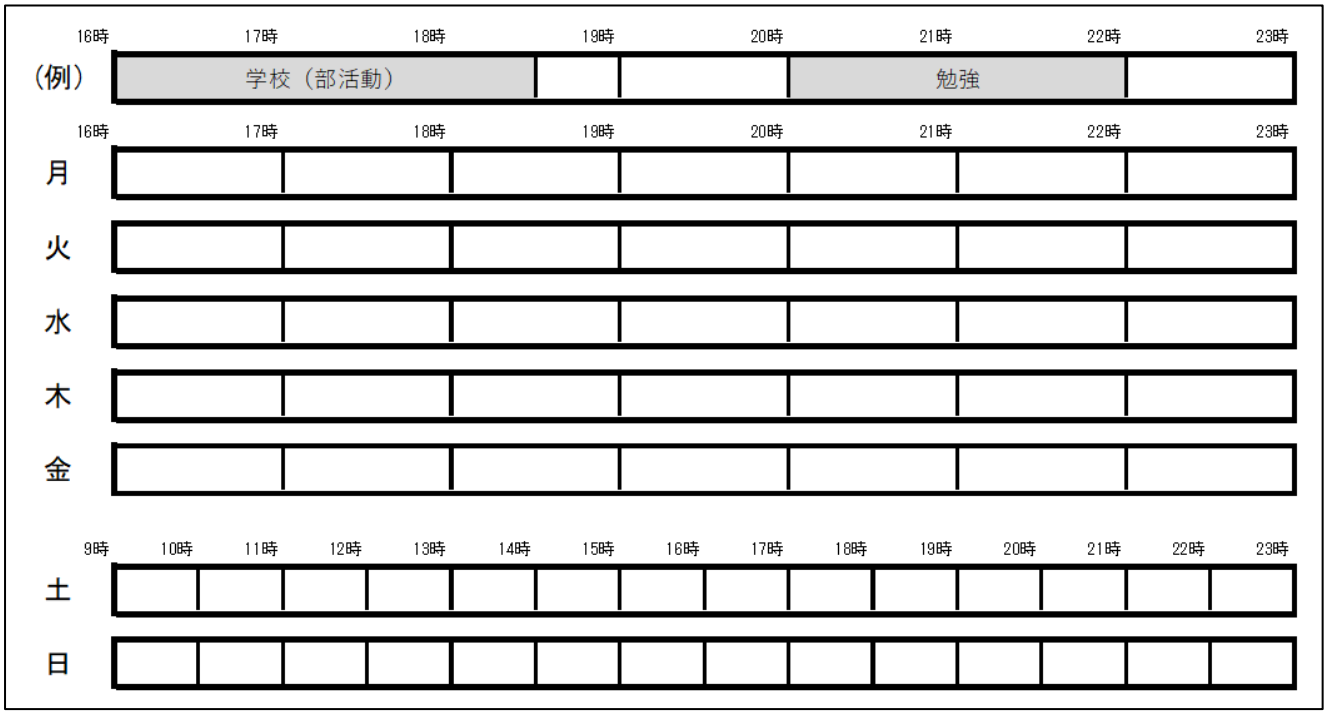


図　家庭学習計画表

(4) ＩＣＴも効果的に活用しましょう。

ノート等の「紙媒体」での宿題だけでなく、学習の目的に応じて、1人1台端末等「ICT」も効果的に活用しましょう。「紙媒体」にはない「ICT」の利点は、使い方によって次のようなことが考えられます。

① 子どもは、すぐに採点結果が分かる。
② 子どもは、繰り返し問題に取り組むことができる。
③ 子どもは、自身のニーズに応じた関連した問題に取り組むことができる。
④ 子どもは、豊富な情報を短時間で収集することができる。
⑤ 子どもは、学んだ成果を動画・写真等、画像で表現することができる。
⑥ 子どもは、ソフトを活用し、学んだ成果を多様に表現することができる。
⑦ 教員は、子どもの取組・達成状況をすぐに把握することができる。
⑧ 教員は、子どものニーズに応じた内容を宿題として出すことができる。

【情報を収集する活動（例)】
・社会　インターネットで問題解決に必要な資料を収集する。
・算数　インターネットで統計データを収集する。
・生活　身の回りの気付きに関わる事象や自然を動画や写真として撮影する。

【知識・技能を習得する活動例】
・AI ドリル教材やデジタル教科書等を活用する。
・教員から配信された動画教材や MEXCBT（メクビット）を活用して、家庭学習を行う（MEXCBT（メクビット：文部科学省ＣＢＴシステム）には、佐賀県小・中学校学習状況調査の過去問題をはじめ、全国調査の過去問題、全国の地方自治体の独自調査問題が掲載されています)。

【学びの成果を表現する活動（例)】
・国語　教科書の音読を、動画撮影する。
・社会　収集した情報を整理して、自分の考えをプレゼンソフトで表現する。
・理科　実験動画を視聴し、その結果を表計算ソフトで整理・分析する。
・体育のダンスの練習、家庭科のリコーダーや鍵盤ハーモニカの練習、家庭科の調理実習の様子などを、動画、写真で撮影し、Web 上で提出する。

【学校での学びの成果を保護者と共有する活動（例)】
体育の授業で「マット運動」の様子をタブレットで撮影し、保護者に動画を見せ、コメントをもらう。

４　教員、子ども、保護者の連携を深めるために

(1)教員同士の共通理解・共通の指導を行いましょう。

(2)子どもとの共通理解を図りましょう。

(3)保護者との共通理解を図りましょう。

(1)教員同士の共通理解・共通の指導を行いましょう。

教員一人一人の家庭学習に対する考え方が違い、それぞれがバラバラの取組を行うと、子どもも混乱し、望むような成果を上げることはできません。

宿題に対する考え方・取組について、教員同士の共通理解を図り、組織的な取組（共通の指導）を行いましょう。

教員同士の共通理解を図るためには

○推進する担当を明確にしましょう。
全教員が一体となって組織的に取り組む体制を整える必要があります。そのために家庭学習を推進する担当教員や担当チームを分掌事務として組織に位置付けることが大切です。

○定期的に振り返りましょう。
子どもに出している宿題が、本当に子どもの学力向上につながっているのか、負担になっていないか、協議をしたり、見直したりしましょう。特に、学級担任が出している宿題に加え、教科担当教員から出している宿題がある場合は、量や提出日などをお互いに伝え合い、子どもの過度な負担にならないように研究主任や学力向上対策コーディネーター等を中心に調整を行いましょう。

(2)子どもとの共通理解を図りましょう。

子どもが主体的に家庭学習に取り組むためには、子ども自身が「なぜ家庭学習が必要なのか」、「どのような学習をどのようにすればよいのか」を理解しておくことが大切です（p5参照）。そのためには、子どもにそれらを丁寧に伝え、共通理解を図っていくことが大切です。

子どもの共通理解を図るためには

○ガイダンスの時間を取りましょう。
年度当初の学年のオリエンテーションの時間などで、家庭学習の取り組み方について確認する時間を設定し、家庭学習の目的や内容、時間等について、子どもへの説明を行いましょう。

(3) 保護者との共通理解を図りましょう。

子どもの家庭学習の充実のためには、保護者の家庭での声掛けや点検等による協力が不可欠となります。そのため、学校でどのような宿題を出しているのか、どのような家庭学習を目指しているのか等を伝え、保護者との共通理解を図ることが大切です。保護者と連携して、子どもの学びを支えていきましょう。

○懇談会、家庭訪問、ＰＴＡ（育友会）研修の場で説明等を行いましょう。
年度当初の学級懇談会で、家庭学習の目的や内容、時間等について説明したり、情報交換のテーマに設定したりすることも考えられます。

○「保護者用リーフレット」の活用
懇談会や家庭訪問の折に、「保護者用リーフレット（**右図**）」を基に、次のようなことを確認しましょう。

・基本的な生活リズムを整える
（早寝・早起き・朝ごはん）
・学習環境を整える。携帯電話やゲームの利用ルールを決める。
・頑張りをみとめ、ほめる、共感する。

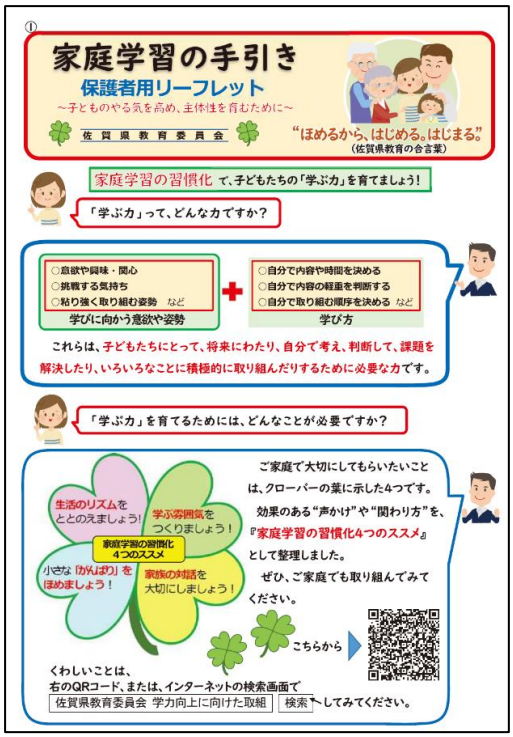


図
「家庭学習の手引き」
（保護者用リーフレット）

【参考・引用文献】
・佐賀県教育委員会　『端末活用ステップアップシート』　令和４年２月
https://www.saga-high-school.jp/e-connect/
・高知県教育委員会西部教育事務所『家庭学習アイデアＢＯＯＫ』　平成 29 年
https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/ideabook/
・栃木県教育委員会　『家庭学習のすすめ』　平成 24 年
https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/kateigakusyu_h23/index.htm
・田中　博之編著　『アクティブ・ラーニングが絶対成功する！ 小・中学校の家庭学習アイデアブック』　2017 年
明治図書